

(公財)神戸大学六甲台後援会だより

(41)

凌霜会員の母校への想い

一口に凌霜会員と言っても、会員の皆さんはそれぞれ独特な価値観を持ち、異なった人生経験を積み上げてこられた方々から成っています。従って母校への想いも実に多様で一律ではない。しかし、自分たちが育ってきた母校が誇るに足る存在として輝き続けることを願う心を持っている人が多いことは、否定できないことであると言つてよいと思います。それを考えると先般神戸大学がいわゆるスーパードグロバル大学の選考から外れた時に、ひとり凌霜会員だけでなく、全学部の卒業生の皆さんから大学本部事務局に苦言を呈する電話が掛かってきたというのには理解できないことはありません。

皆さんがご承知のように、以前に文科省が、全国の国公立私立大学のうち22の大学を研究大学と認定しました。その中には、神戸大学が入っています。しかし、最近では色々な組織の評価づけが話題になってきました。世界の大学ランキングも、英国のタイムズ・ハイヤー・エデュケーション (THE) 評価から始まって世界中で幾つかの評価が発表されるようになりました。大学はどこでも科学研究の基盤になる組織であり、そこで人材養成は各国の社会経済発展に不可欠なものです。従つて、どの国でも、自国の大学が世界の大学の中でも高い評価を受けるようになることに大きな関心を寄せています。

そんな風潮に合わせて、わが国でもそのうちTHE評価の1

00位以内に、現在の2大学だけでなく10大学くらいは入れるようにしたいという方針が示されています。しかし、国立大学への交付金が法人化以来削減され、しかも、GDP中の高等教育への国の支出がアメリカでも1%、EU諸国でも1%はあつて、EUなどでは今後この比率を倍増したいと言っている時に、0.5%しか支出しない状態が続いているわが国で、この計画の実現は極めて難しいとの意見もあります。そんな状況の中で、最初に触れましたように、神戸大学はスーパードグロバル大学から外れました。凌霜会員だけでなく、神戸大学の各学部の教職員や卒業生や学生諸君の保護者の皆さんが心配されるのは、当然のことと言えましょう。

ただ、ある外国雑誌にも取り上げられていましたように、THEの評価も巨額の基金や運営費があれば達成できる評価項目が中心になっていて、各大学の教育成果や研究成果を内容的に評価できるようになっていないという判断もあるようです。特に、どの国でも、優れた教授や職員を集めようとすると費用が増大し、授業料も高くなる。ところが、どの国でも経済状態がよくない。おまけに米国などのように返還を要する奨学金制度が中心になっている国では、学生は巨額の奨学金借金を背負つて卒業することになり、これ以上授業料を増額することは難しい。しかも大学間競争が激しくなると教育費を削減しないといけない。そこで米国で始まったMOOCの制度(すなわち、それぞれの学問分野を代表するような教授たちによる授業をITで流し、それを利用して単位取得を保証する制度)を利用して、そのようなようになってきた。しかし考えてみると、教育は知識の伝達

だけのものではなく、人間的接触を通じての人格形成と意欲の向上をもたらしものでなければなりません。もし、そうだとすれば、わが神戸大学では、いま世間的にもはややされている問題の多い大学評価を超えて、大学のあり方について確乎たる態度を確立することが望まれます。昨年 of ホームカミングデーの時にも紹介された官立神戸高等商業学校長の水島鍬也先生の教育方針はその一つです。

水島先生は、周知のように、日本で2番目の高等商業教育機関としての官立神戸高等商業学校の開校にあたり、受験生の受験資格や入学試験期日などの抜本的改革だけでなく、数々の制度改革を実施されました。一橋の東京高等商業学校の専攻部にあった少人数の研究指導制度を普通科しかなかった神戸高商に導入され、それを学問研究だけでなく、人間的研鑽の場にされました。またそれとは別に、学生を出身地・出身校別に別々の友団として組織し、それに教員と職員も加わり人間的鍛錬を目的とされました。その結果、学生自身がこうした教育環境を松下村塾ならぬ葺合村塾と自称するようになりました。

政府が、高等教育費を増額するどころか減額し（その具体的な一例として大阪大学の平野俊夫学長は、法人化以降の10年間で同大学への国からの交付金は36億円減少したと述べておられます）大学の自主的努力で発展の方策を発見するよう求めている状態では、わが国の国立大学の国際的な地位向上は容易ではありません。旧制帝国大学として自然科学系研究所も確立している大学でもそれが難しいといわれている現状を考えると、残念ながら自然科学系研究所が一つもない神戸大学の場合、余計

難しいと自覚しておかねばなりません。いうまでもなく、各研究者の先生方にはその要請に応じて頂けるご成果を期待しなればなりません。しかし、そうした制度的な制約とは独立に、大学自身の改革で実現できる水島先生時のような教育努力は、全教職員と学生諸君の決意次第で実現できます。私たち六甲台後援会もそうした皆さんのご努力に全面的な支援をさせて頂きたいと思えます。

今回も実に多くの皆さんからご寄附を頂くことになりました。先ほど、凌霄会員の皆さんが母校の輝かしい歩みを渴望しておられることを述べさせて頂きました。その証拠にこの近年、各年次の卒業生が、クラス会を開催される度に多額のご寄附を頂いています。新制3回の「しんざん会」（昭和30卒）の皆さんが平成26年度中と27年度に入ってから、さらに実に85名の皆さんからのご寄附を頂くことになりました。整理の便宜上、到着順により寄附金ごとに列記することをお許しく下さい。

まず5千円を、福元甲一様（経）、相馬満様（経）、松井淳様（経）、古川治様（経）、山口哲史様（経）、内田茂様（経）、清水由民様（経）、松谷靖二様（経）、山内弘様（経）、次に1万円を、榎本彰様（経）、池田幸雄様（経）、長尾晃様（経）、浅野禎一様（経）、三木正太郎様（経）、池田勝彦様（経）、木村味津三様（法）、松浦公良様（経）、野口順一様（法）、大橋貞彦様（経）、村上伸夫様（経）、山内一史様（経）、萩原義勝様（経）、三木伸弘様（経）、故若林信二様（経）、木村吉比登様（法）、岩谷哲男様（経）、川瀬滋夫様（経）、東康七様（経）、老田茂様（経）、山科威様（経）、直井史郎

様(経)、柿木健一郎様(法)、内田武夫様(経)、古河尚様(経)、杉本孝昭様(経)、米村公作様(経営)、山田幸夫様(経)、田中正己様(経)、朝比奈啓三様(経)、篠山修様(経)、後藤英雄様(経営)、横田淳一郎様(経営)、三木實様(経営)、治田純男様(経営)、水田義明様(経営)、栗井賢文様(経営)、宮野尚治様(経)、馬場俊一郎様(経)、堀田哲郎様(経)、川眞田修様(経)、田中一家様(法)、鈴木大様(法)、矢田博様(経)、吉田稔様(経)の皆さんがご寄附くださいました。さらに1万5千円を本城順三様(経)、故片山松造様(経営)、2万円を前川晋様(経営)、久本浩一郎様(経)、岡本幸三様(経営)、大正一法様(経)、井上勝次様(経営)、宮本靖彦様(経営)、島崎行雄様(経営)、中野富正様(経)、黒田守彦様(経)、岩村一民様(経)、葛西仁治様(経)の各氏が、次に3万円を、富田勝三様(経営)、金谷康彦様(経営)、佐野健様(経営)、蚊帳清一様(経営)、水野洋様(法)、黒住誠明様(経営)、平田淳二様(経)の各氏、さらに5万円を、檜崎正博様(法)、三島祥宏様(経)、根津隆様(経)、伊藤吾郎様(経営)、渡会武嗣様(経営)、また10万円を、繁益幸雄様(経営)、石橋尚様(経)、深井喜一郎様(経)、泉邦夫様(経)、佐藤一夫様(法)の5氏が、さらにしんさん会の最後として、松村實様(経)から30万円を寄附して頂きました。本当にありがとうございました。

なお、これ以外にいつものように、次の方々からご寄附を頂戴しました。到着順に掲載させて頂きます。まず、佐藤禎雄様(昭31法)、森安陸夫様(昭31経)、鈴木一水様(平2経営博)、竹村勝彦様(昭41経)および堀助郎様(昭32法)の5氏がそれ

ぞれ5万円ずつ、吉田昭彦様(昭32経営)2万円、さらに高崎正弘様(昭34経営)から30万円、また、大久保裕晴様(元経済学部教授で現在株式会社「自然総研」社長)から100万円の寄附を頂くことになりました。本当にありがとうございました。厚くお礼申し上げます。これで今回新しく報告させて頂ける寄附金額は357万5000円、これでいつも申し上げている平成16年以降今日までに3億634万円余にもなったことをご報告させて頂きます。

毎回お願い申し上げます寄附金の送り先は左記の通りです。よろしくお願い申し上げます。

◎銀行送金の場合(銀行からの通知がどうしても遅くなり、領収書等のご送付が遅れる可能性がありますので、是非ご送金のことを事務局にご一報ください)

銀行名 三井住友銀行六甲支店

口座番号 普通預金 4069496

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

◎郵便振替の場合(通信欄に卒業年次と出身学部をご記入ください)

口座番号 00980-9-116772

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

〒657-0068

神戸市灘区篠原北町4-11-5

公益財団法人神戸大学六甲台後援会事務局

電話・FAX (078) 861-3013

E-mail:rokkodai@kobe-u.com